

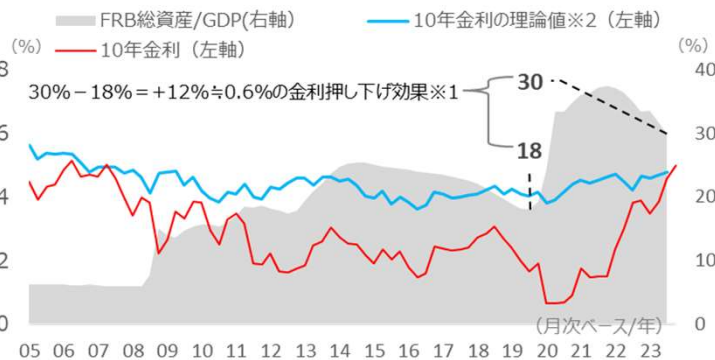


◆米10年金利5%台はオーバーシュート域と見る

理由は以下3点

- ① 10年金利の理論値は4.2%と推計されるからです。(図表1)
 - 実質潜在成長率(約2%) + 期待インフレ率2.8% (5Y5Yインフレ期待) - QEの金利押し下げ効果(▲0.6) = 4.2%
 - 4.2%にリスクプレミアム1%を上乗せしたとしても最大5.2%、中東のリスクプレミアムは短期的なものでいずれ剥落。
 - 財政のリスクプレミアムを0.5%程度としても4%台後半が妥当な線では？
⇒5%はオーバーシュート域と見ます。
- ② 10年金利が名目潜在成長率を一旦越えると、その後は景気後退へ
⇒金利は低下してきた過去の経緯があります。(図表2)
- ③ 金融環境はリーマンショックに次ぐレベルにタイト化しており、4Q以降の景気減速(金利頭打ち低下)が示唆されています。(図表3)

【図表1】米10年金利理論値(※2)からQE効果(※1)を引くと約4.2%

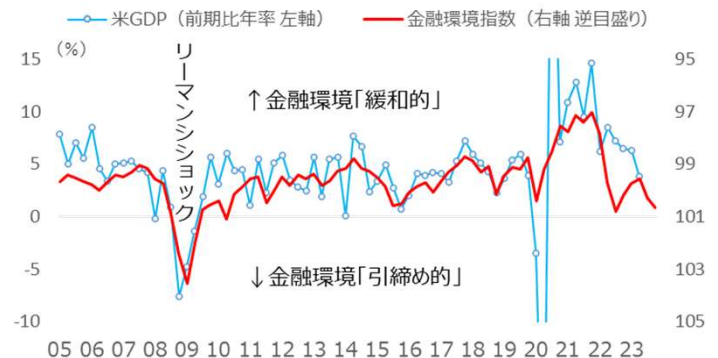


※1 FRB総資産/GDP±1%で10年債利回り±0.05%の効果 (FRB試算)
 ※2 米実質潜在成長率(2%) + 米長期期待インフレ率(5年先5年期待インフレ率: 2.8%) = 4.8%

【図表2】10年金利が一旦、米名目潜在成長率を越えると、その後金利はピークアウト



【図表3】金融環境の引き締め⇒4Q米GDP減速金利ピークアウトへ



(図表1~3) Bloombergのデータを基にニッセイアセットマネジメント作成

※本稿に記載された意見、推定、見通しは、本稿の日付時点における執筆者の分析・判断に基づいています。それらは必ずしもニッセイアセットマネジメントの意見を反映しているとは限らず、また予告なしに変更される場合があります。



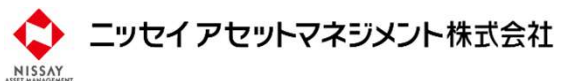
ストラテジストの視点

松波塾

【当資料に関する留意点】

- 当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。また、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。実際の投資等に係る最終的な決定はご自身で判断してください。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料のいかなる内容も将来の市場環境等を保証するものではありません。
- 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料に投資信託のグラフ・数値等が記載される場合、それらはあくまでも過去の実績またはシミュレーションであり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮していませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。
- 投資信託は投資する有価証券の価格の変動等により損失を生じるおそれがあります。
- 投資信託の手数料や報酬等の種類ごとの金額及びその合計額については、具体的な商品を勧誘するものではないので、表示することができません。

<設定・運用>



ニッセイアセットマネジメント株式会社

商号等： ニッセイアセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者

関東財務局長（金商）第369号

加入協会： 一般社団法人投資信託協会

一般社団法人日本投資顧問業協会

コールセンター 0120-762-506
9：00～17：00（土日祝日・年末年始を除く）
ホームページ <https://www.nam.co.jp/>

